



特集

こだわりの産品を紹介
あいなん逸品図鑑

令和2年度分はこちら↓



愛南町
ホームページ

令和元年度分はこちら↓



愛南町
ホームページ

「あいなん逸品図鑑」特集
 広報あいなんでは、町内の職人のこだわりの産品（農水産物や加工品、ときには工芸品など）を紹介する「あいなん逸品図鑑」というコーナーを設けています。今回は特集として、3人の方に話を伺いました。

なお、このコーナーは愛媛CATV愛南局と連動しており、同局が撮影した映像はケーブルテレビ（びやびや愛南タイム）で放送されています。

動画はYouTubeの愛媛CATVアカウントでも視聴できますので、左記のQRコードを読み取ってご覧ください。

あいなん逸品図鑑 その⑳



「組子細工」



愛媛CATV
動画

日新建具 清家^{よしとか}義隆さん（御荘平城）

木材の組み方や加工の仕方を変えることで、さまざまな模様が入った組子細工を制作する清家^{よしとか}義隆さん。

父親の跡を継いで出入り口の間仕切りなどに取り付ける戸や障子などを作る建具職人になり、その技術を使って20代前半に組子細工を作り始めました。「最初は失敗ばかりで、納得ができるものが作れるようになるのに10年くらいはかかった」と制作の難しさを話します。

組子細工作りは、「一つ一つの模様がきれい見えるように、緻密な作業だ」と話すように、模様は違和感が出ないように目の大きさが同じになるように整えています。また、自身の作品について、「古き伝統を守りつつ、新しい技術を取り入れてオリジナルのものを作っている」と自信を見せます。

清家さんの制作する作品には、コースターのような小さいものから間仕切りに使う立て戸のような大きなものがあります。ゆらり内海やフレッシュ本松などで売られているコースターは、2日ほどあればまとめて20から30個くらい制作でき、立て戸くらいの大きさのものなら2週間くらいで作れるそうです。

町内で組子細工を作っている事業者は数業者ありますが、その中でも、法律に基づいた技能試験に合格した技能士で全技連マイスターの資格を持っているのは清家さんだけで、「マイスターとして、小中学校の課外学習やイベントなどに参加し、ものづくりについて教えている」と技術が残っていくように後進の育成にも力を入れます。

今後の展望については、「若い人たちに自分の作品を見ていただいて、やりたい人や興味のある人に技術や伝統を伝えていきたい」と意欲を見せました。



▲模様の細部までこだわった自慢の組子細工の作品を手にする清家義隆さん。



▲作品に使われている木材部品は一つ一つ丁寧に手作ります。



▲作品は組子細工で作られたあんどんや壁に飾るインテリアもあります。